

# 茎枯病対策

**平成17年は、とくに茎枯れ病が多い年となりました。**

原因は前年の台風以降、天井フィルムがはがれた状態のままのハウスでは、茎枯れ病が大発生し、冬場の茎刈り時に茎枯れ病菌が大量に地面に残ってしまいました。

さらにバーナーでの畝面焼き払いが十分でなかったハウスについては、立茎開始直後から茎枯れ病がかなり多く見られました。

**この年の教訓として、つぎのような事柄があげられます。**

- ①台風後は草勢が戻り、茎の整理が終わり次第、天井の被覆を早急に行う。
- ②畝面の焼き払いは毎年徹底して行う。
- ③立茎時期は地ぎわを中心に茎枯れ病の発生に注意し、早い時期に薬剤の防除を行う。

## 農薬による防除

防除方法①茎が黄色みを帯びている場合は完全に地際から切除。手で抜ける場合は抜く。

②地ぎわの一部が侵されているだけの場合は動噴で地ぎわを中心に防除する。

③茎は黄色になっていないが、病斑が大きい場合は思い切って地ぎわから切除。

※二次感染予防のため処分した茎はかならずハウスの外に持ち出し、焼却処分する。

使用薬剤（高温時薬害注意）

予防の場合：ダコニール1000

Zボルドー

治療の場合：アミスター20フロアブル

ベンレート水和

同時防除 スリップス、ハダニの発生も多くなっています。茎枯病と同時防除します。

スリップス：モスピラン水溶剤、  
スピノエース顆粒

ダ ニ：コテツフロアブル

**農薬の最新情報は農薬一覧表を確認してください**



## 灌水方法

立茎時期は茎枯病にかかりやすいため、若茎の表皮が乾燥しやすい灌水方法や灌水時間を考慮した栽培管理が必要です。

ポンプの水圧(または水栓の開き具合)を小さくして株元を中心に灌水することで、若茎の濡れ、濡れる時間を短くして早期乾燥を促すような少量多回数の灌水が必要です。

土壤水分が多い場合や若茎の濡れ状態が長い場合は、茎枯病や若茎の立枯れ症の発生を助長する。反対に土壤水分が少ない場合、成茎とする若茎の茎径が伸長途中から急に細くなり、先端のしおれや焼けを生じやすくなります。年によっては乾燥による茎の硬化で、品質の低下も見られます。少量多回数灌水が必要です。

## 梅雨期間中

立茎後は、うね表面からの灌水とうね間灌水との併用灌水が必要となります。

梅雨期や秋雨期では、ハウス両端のうね内は多湿となっていますが、中央部のうねは乾燥している場合があります。この場合に中央のうねのみに灌水すると、茎枯病の発生を抑制する効果が高くなります。

※ハウス周囲の雑草はスリップス、アブラムシ等害虫のすみかとなるため、除草剤をかけておく。そのときにはあらかじめ殺虫剤を散布し、害虫を殺しておく。

## ヨトウ類の防除

- ①防虫ネット たて4ミリ × よこ4ミリ(または4×2)の防虫ネットをサイドに張り、侵入を防ぎます。  
このとき腰ビニルをはめておくと幼虫の侵入がさらに少なくなります。  
ネットは隙間がないように注意してください。
- ②水攻め ハウスを囲むように深さ20センチ以上の溝を掘り、マルチをかけます。



- ③黄色灯 ハウスの内部、外部に黄色の灯りを点灯することで夜間成虫の飛来を防ぐことができます。  
この効果は成虫のみなので、周辺圃場からの幼虫移動対策を同時に取る必要があります。



ハウス開設置の黄色蛍光灯(福岡)



ぼんぼり型は7m以上に設置(長崎)

- ④農薬 幼虫の大きさが1センチを超えると農薬が効きにくくなり、さらに夜間は地面の中に潜りようになるので、防除が難しくなります。  
幼虫が小さいうちにたたくのが鉄則です。
- ・ 比較的即効性のある殺虫剤：プレオフロアブル、アファーム乳剤
  - ・ 卵のふ化、幼虫の成長を邪魔する：カスケード乳剤、ノーモルト乳剤
- 農薬の最新情報は農薬一覧表を確認してください。  
幼虫が大きくなったら、早朝に手で補殺するのも意外と効果的です。



## タバココナジラミの防除

※近年のアスパラガスハウスでは、以前問題となっていなかったコナジラミによるすす病の被害が問題となっています。

これは、従来のコナジラミ(タバココナジラミバイオタイプB)でなく、新しい種類の「タバココナジラミバイオタイプQ」が蔓延したためです。

※さらに、スリップス等の害虫対策として有効な「UVカットフィルム」(紫外線カット)を展開したハウス内において、とくに被害が目立つことも特徴的な傾向です。薬剤に対する抵抗力が強く、現在アスパラガスに登録がある農薬での効果は完全ではありません。

※長崎県では、害虫の通気孔である「気門」をふさぐ「気門封鎖剤」による防除が効果を上げています。

■気門封鎖剤のオレート液剤100倍およびサンクリスタル乳剤300倍は、タバココナジラミの発生を抑制し、「すす」によるアスパラガスの被害を軽減できる。特に、オレート液剤は長期間タバココナジラミの密度を抑制できる

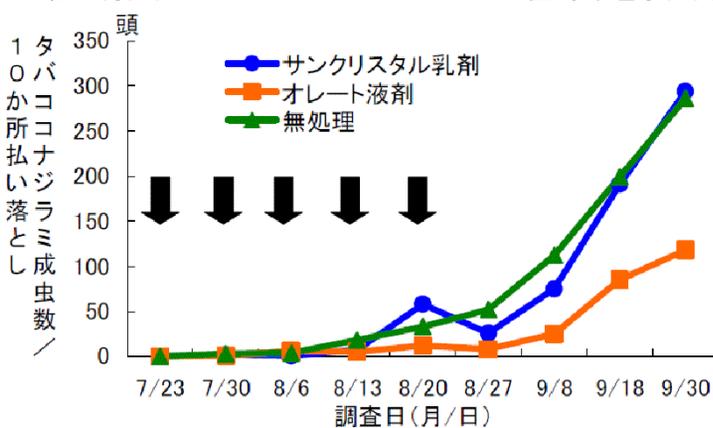


図1 気門封鎖剤散布によるタバココナジラミ成虫の密度推移(払い落とし調査)  
※矢印:薬剤散布日

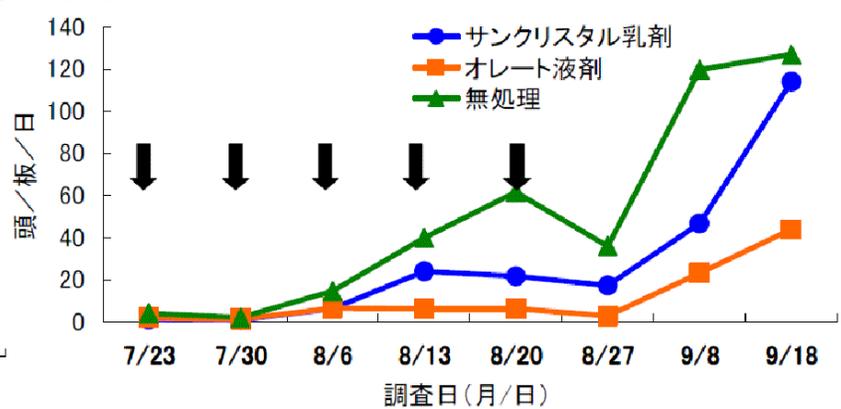


図2 気門封鎖剤によるタバココナジラミ成虫の密度推移(黄色粘着板誘殺調査)  
※矢印:薬剤散布日

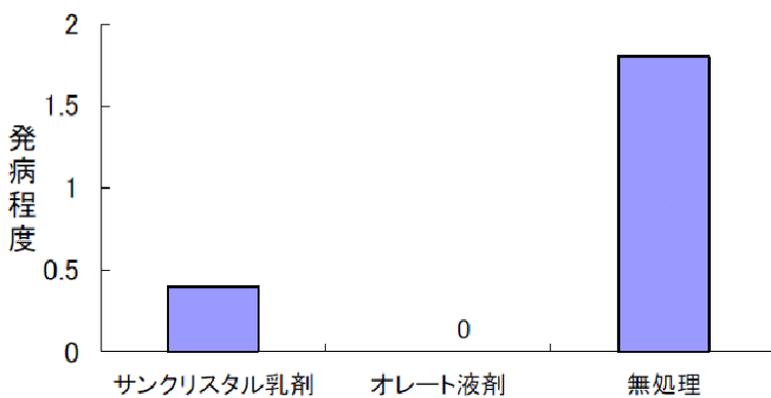


図3 気門封鎖剤散布のタバココナジラミによるすす病抑制効果

※1調査日:9/8

※2発病程度:0:無発生 1:甘露に発生したすすが点在する  
2:甘露に発生したすすが多数見られる 3:擬葉の表面を1~3割程度すすが覆う 4:擬葉の表面を3割以上すすが覆う

※3発病程度=Σ(程度別発病擬葉数×指数)/(調査擬葉数)

(長崎総農林試)

## 排水対策・換気・灌水

★梅雨時の集中豪雨のときには、ハウス内へ雨水が降り込まないようにサイドを閉める。また、雨水が溜まらないように、圃場周囲に排水路をきちんと作る(アスパラは水を好みますが、停滞水は根傷みの原因となる)。

★梅雨時の晴れ間にはハウス内の温度は急激に上昇する。軟弱徒長に育ち気味であるため、晴天日には早めに換気を始め、蒸れによる病気の発生や葉焼けを防ぐ。

★かん水するときには、サイド側のうねは湿っていることがあるため、かん水前に必ず確認し、中央うねだけ多めにやるなど管理作業を変える。